

- みんなが地域とつながる機会がある
- 普段から顔見知りの関係があり、いざという時に支えあえる
- ときに支え、ときには支えられるというお互いさまの関係性がある
- さりげない見守りの中で安心して過ごせる
- 支えあいの仕組みがある
- 安心して子育てできる地域をつくる

自分で・家族で【自助】

- ・地域に知り合いを増やす。まずはあいさつから！
- ・自分が困ったときは、困っていることを誰かに伝えてみる。
- ・備蓄品を準備する等、災害時やいざというときに備える。



仲間で・地域で【共助】

お互いさまの気持ちで行動する

- ・困っている人がいたら、何かお困りですか？と声をかけてみる。
- ・自分でできる範囲の手助けをする。
- ・自分で解決できないことでも、相談機関や地域の人などにつなげて相談してみる。



人と人の出会いのきっかけをつくる

- ・地域で顔見知りになれるきっかけをつくる。
- ・顔見知りになり、ちょっとしたことを話せる関係をつくる。

2階に住んでいた子どもの足音が最初は「うるさいな」と思っていたが、顔見知りになってからは「今日も元気に走り回っているな」と思えるようになった！



支えあいや見守りの仕組みをつくる

- ・気になっていることを話し合える場をつくる。
- ・支えが必要な人と手助けができる人とをつなげる仕組みをつくる。
- ・支えあいや見守りの大切さを共有し、一緒に考えたり実行したりする仲間を増やす。



自助・共助の取組事例

大好きな高齢者ふれあいサロンの みんなと会いたくて・・・

町内会館で毎月開催しているふれあいサロン。毎回おしゃべりを楽しみに通ってきているAさんは、足を怪我して入院してしまいました。みんなが心配していたところ、Aさんは退院後すぐにサロンにやってきました。どうしてもみんなに会いたくて、自宅から100mの距離をタクシーに乗って来たのです。

帰りはメンバー2人でAさんの両脇を抱えて歩いて帰ることができました。

Aさんが来てくれたことが他のメンバーにとっても、うれしいことでした。



ちょっとした困りごとを助けあいで解決

ある地域では、地域ケアプラザを拠点として高齢者等のために手作り弁当の配達を行っています。メンバーは毎月色々なお宅を訪問するうちに、草むしりやお出かけの付き添いをしてほしい、などのちょっとした困りごとを抱えていることに気づきました。

そこで、メンバーと地域ケアプラザで話し合いを続け、助け合いグループを立ち上げることになりました。お弁当配達のメンバーを中心に口コミで広がり、20数名が集まり、その後も段々と増えています。

頼みやすいように1回500円の有料としました。どんな依頼に対応するかの基本ルールはありますが、その都度話し合いで決めています。

活動しているうちに色々と見えてくるものもあります。草むしりに行ったお宅の人が最初はそっけなかったのですが、時間をかけて会話をしていくとその方の気持ちに触れることができるようになり、コミュニケーションの大切さも実感しました。

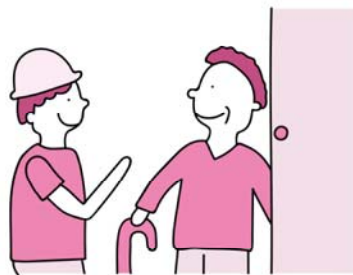


「安全・安心家族カード」や防災訓練で ひと工夫、災害時にも助けあえる 顔の見える関係づくりをめざして

ある自治会では「安全・安心家族カード」を毎年集めて、世帯情報・要援護者状況を把握しています。長年継続して習慣化しており、任意ですが殆どの世帯から提出して頂くことができ、ひとり暮らし・高齢者・要援護者情報なども把握できています。

しかし、それだけでは実際の災害時には足りません。そこで、全世帯参加型の防災訓練の時、あらかじめ相手を決めずに、その時に気になる5軒を訪問し安否確認をして報告する方式で実施しています。この方式では漏れることなく全員の安否確認が1時間程度でできています。

その際に「防災豆知識カード」を交換して話題とし、防災を学びながら自治会員同士の顔の見える関係の輪を楽しく広げる仕組みとしても役立っています。



普段の子どもとの関わりから学習支援へ

中学生向けの学習支援事業に携わっていたボランティアさんの中には、こども食堂でも子どもと関わる機会がある人もいました。そんな中で、学習のつまづきを少しでも少なくするには、もっと早い段階から支援をする必要があると気づき、既存の事業では漏れてしまいがちな小学校高学年の子どもが来られる学習支援事業をやりたい、という声が出ました。地域ケアプラザなどを巻き込みつつ、同じ思いを持つ人を集め、話し合いを重ねてボランティアによる学習支援グループが立ち上がりました。



1

2

3

4

区役所・区社協・地域ケアプラザで【公助】

地域ぐるみのつながり・助けあいの仕組みづくり

区役所

- ・地域支えあい事業などを通して、地域で活動する方の支援や、支えあい活動の推進に取り組みます。
- ・分野ごとの関係者が集まり、地域の様々な情報や課題について共有する会議等を開催し、支えあい活動の仕組みづくりにつなげていきます。

区社協

- ・ボランティアや地域活動に参加したい人、してほしい人をつなぎ、支えあいの輪を広げます。
- ・フードドライブや善意銀行などの活動を通して、金品の寄付を募り、必要な人に配分することで、寄付を介した支えあいを進めます。
- ・地区担当者が地域に出向き、支えあい活動の推進に共に取り組みます。また、区社協で受けた困りごとの相談を、地域と共に解決につなげる働きかけを行います。

地域ケアプラザ

- ・自治会町内会、地区社協や様々な団体と連携し、支えあいの取組を支援していきます。
- ・身近な地域での小さな困りごとなど、お互いに助けあえるようなボランティアグループを立ち上げるなど仕組みをつくっていきます。

取組内容・事業例

★配食ボランティアの支援



地域ケアプラザでは、調理室の貸出のほか、日々の活動を支援し、支えあいの取組を支援します。

【配食ボランティアの活動支援(地域ケアプラザ)】



高齢者等にお弁当を届けているNPO法人や地域のボランティアグループ同士が情報交換や学習する機会を提供します。

【ふれあい型配食サービス連絡会(区社協)】

地域の中の通える場所・つながる機会づくり

区役所

- ・身近な地域で通える場や参加できる場が持てるよう関係機関と連携し、立ち上げや運営を支援します。
- ・子どもが生まれる前から地域とつながることができるよう、両親教室や赤ちゃん訪問の機会を利用して地域の情報を伝える等、地域子育て支援拠点や保育園などと連携し、支援していきます。

区社協

- ・地域の様々な居場所の実践事例等の共有を通して、取組が広がるように支援します。
- ・こども食堂などの居場所の支援を通して、地域での見守りやボランティアの育成を進めます。

地域ケアプラザ

- ・親子の遊び場づくりや障害児者の居場所づくりなどを通して、身近な場所で様々な人や活動がつながる機会を整えていきます。
- ・高齢者の外出の機会となるよう、講座の実施や自主グループの立ち上げ支援などにより、多様な活動の場所をつくっていきます。

取組内容・事業例

★新しい活動の場づくり支援



区役所は地域の方が主体的に活動する場づくりにあたって、補助金により支援。活動の継続や運営にあたり、区社協や地域ケアプラザはノウハウを提供するなど、地域の人の居場所づくりを支援します。

【地域への補助金・空き家の活用の話し合い(区役所・区社協・地域ケアプラザ)】

見守り活動の支援

区役所

- ・地域の中で安心して過ごせるよう、認知症高齢者やひとり暮らし高齢者の見守り活動などを支援します。
- ・地域と共に子どもを見守る体制を整えていきます。
- ・生きづらさや生活に困り事を抱えている人が早期に相談につながるよう、見守り体制を整えていきます。
- ・学校と地域が連携した防犯活動、警察等と連携したツールづくり、情報提供などを進め、防犯意識を高める支援をします。

区社協

- ・地域の様々な見守りの実践事例等を共有し、取組の裾野を広げます。
- ・区社協で受けた困りごとの相談を地域につなげ、ともに考え、見守る地域づくりをします。

地域ケアプラザ

- ・民生委員や友愛活動員等と連携した見守り活動を通して、支援が必要な人の情報を共有し、福祉サービスや地域の見守りにつなげていきます。
- ・様々な人が使える、見守りに必要なツールを作成するなどし、地域の中でさりげない見守りの意識が醸成されるよう支援していきます。
- ・安心して生活できるよう、詐欺予防や安全な消費生活についての啓発を進めていきます。

取組内容・事業例

★見守りの工夫



地域で見守りのポイントについて話し合い、みなさんに配って見守りの目を増やします。

【見守りポイント(地域ケアプラザ)】



特殊詐欺被害を未然に防ぐため、通話内容を録音できる迷惑電話防止機器を、磯子警察署を通じて区内の高齢者を対象に貸し出しています。

【詐欺被害防止対策(区役所)】

防災・減災の取組の支援、地域の支えあい

区役所

- ・地域防災拠点の運営支援や災害時要援護者支援の取組を通し、地域の助けあい活動を推進します。
- ・自助の力を高めてもらえるよう、様々な方を対象に地域で防災講座を実施していきます。

区社協

- ・災害ボランティアについて、近隣区や横浜市社会福祉協議会と連携し、発災時の対応に備えます。
- ・区内での発災時の災害ボランティアセンターの立ち上げに向けて、ボランティアや関係機関とのネットワークづくりを行います。
- ・コミュニケーションボードなどのツールを活用し、障害者等との災害時の支えあいにつなげます。

地域ケアプラザ

- ・福祉避難所の運営など、支援が必要な人が安心して避難生活を送れるよう、いざという時の支援をします。
- ・地域防災拠点での訓練参加などを通して、顔の見える関係づくりを進めます。

取組内容・事業例

★発災時に備えた準備



災害時に障害者等が避難所で安心して過ごせるよう、円滑なコミュニケーションのためのツールとして普及（災害用の他にお店用と救急隊用があります）

【コミュニケーションボード(区社協)】



訓練の時に災害対策用トイレの組み立てをしました。いざという時の拠点の運営について日頃より地域の中で話し合いを重ねています。

【地域防災拠点の運営支援(区役所)】

コラム | column

災害時にペットは？

災害がおきると、人と共にペットも被災します。地域防災拠点には飼い主がペットを連れて避難してくる「ペット同行避難」もあります。ペットを飼っている方も飼っていない方も、互いに思いやり、協力し合うことが大事です。災害時の支えあいに、ご理解・ご協力をお願いいたします。

区役所生活衛生課では、地域防災拠点でのペット同行避難受け入れ準備の支援を行っています。

- ・ペット同行避難を想定した拠点訓練
 - ・一時飼育場所・飼育ルール設定の支援
- など、お気軽にご相談ください。



【実際のペット同行避難訓練取組み事例のご紹介】



災害への備えについての説明



模擬一時飼育場所避難体験



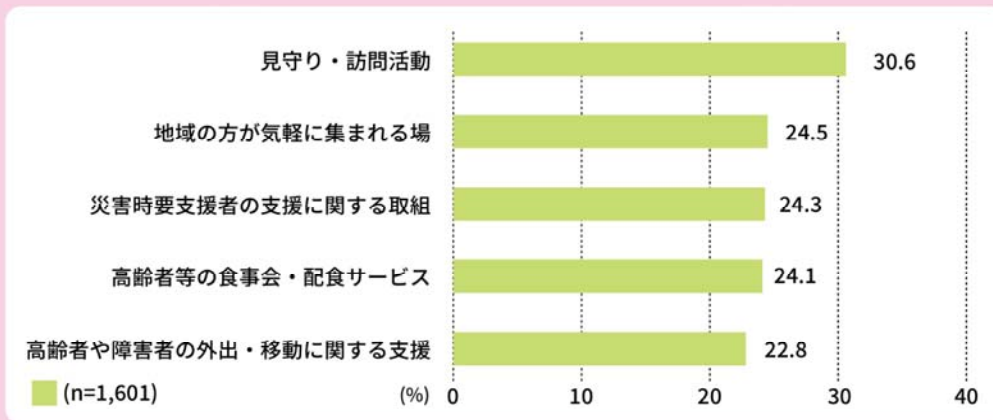
説明パネルや持ち出し品の展示

詳しくは…

「災害時のペット対策」
～ペットとの同行避難
対応ガイドライン～



● 地域で充実していくと良いと思う取り組み(上位5項目)

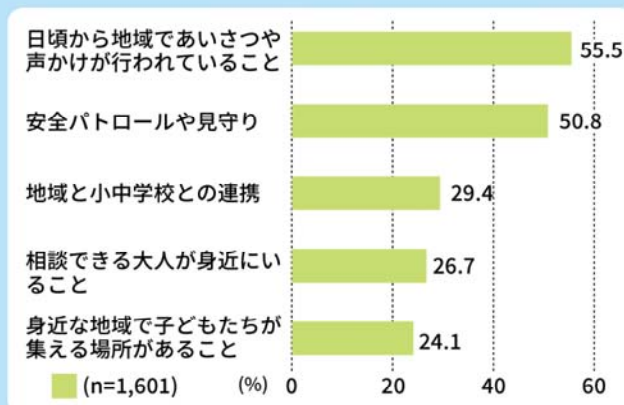


地域で充実していくと良いと思う取組は、「見守り・訪問活動」が最も多く、子どもや高齢者など幅広く見守りが求められています。地域の見守りのなかで、何かあれば声をかけたり、気にかけてあげることが日常の安心にもつながります。中には困りごとがあっても地域でのつながりがなくSOSが出せない人もいます。誰かが気付いた時に声をかけることが、支えあいや助けあいのきっかけになることもあります。まずは声をかけあえる関係をつくることから始めていきましょう。

障害があったり、生活に困りごとを抱えている人がいたら、一緒に考えたり、専門的な相談につなげることで解決につながっていくこともあるね。



● 子どもたちが安心して生活していくために充実していくと良いもの



子どもたちが安心して生活していくための取組については、「日頃からの地域のあいさつや声かけ」と「安全パトロールや見守り」が50%を超えており、地域全体で子どもたちを見守っていく取組が重要と考えられています。

あいさつや声かけて子どもたちにとっての安心材料なんだね。

